

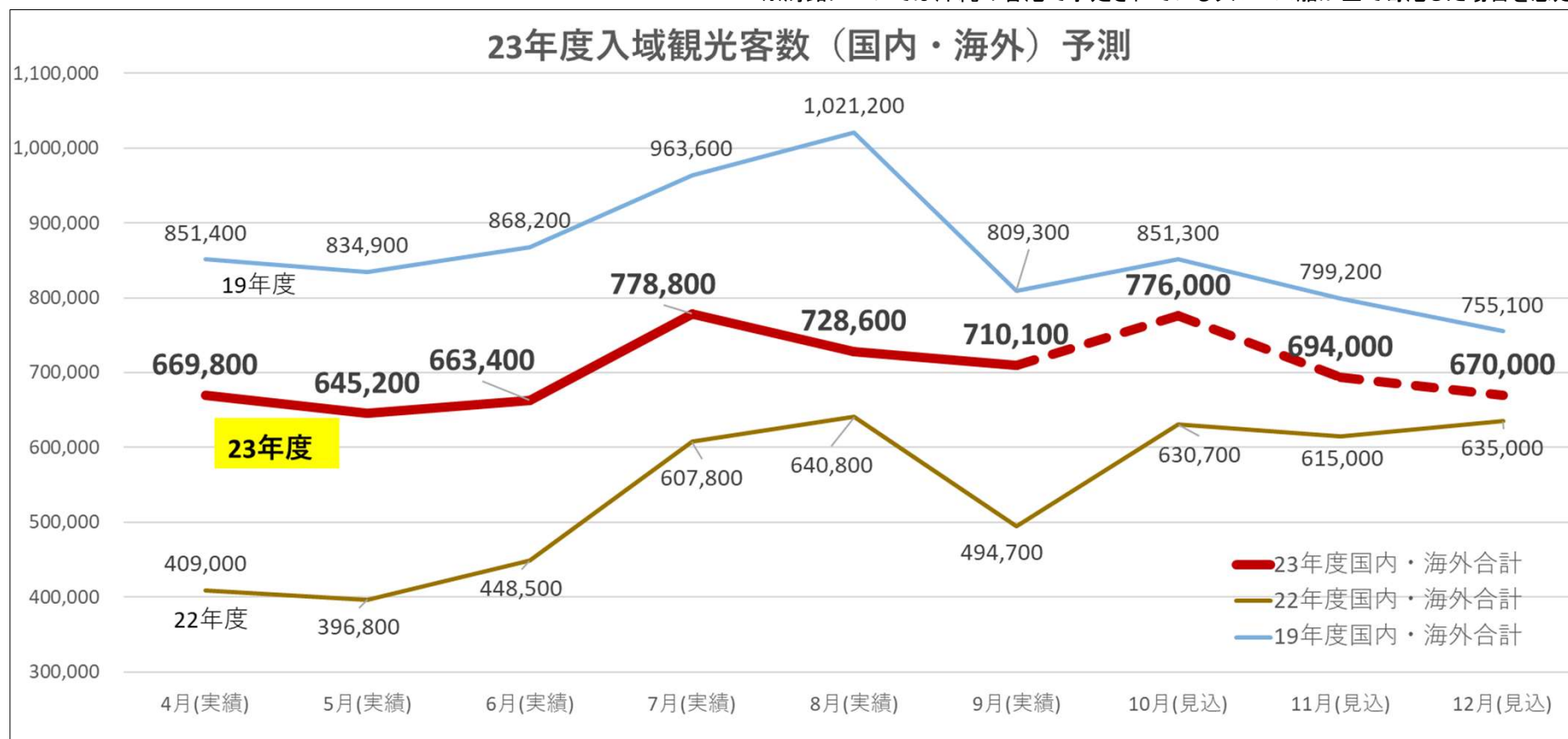
入域観光客数概況(23年上期実績および10月～12月見通し)

2023年11月1日
OCVB

1. 入域観光客数概況(23年上期実績および10月～12月見通し)

	4月(実績)	5月(実績)	6月(実績)	7月(実績)	8月(実績)	9月(実績)	4-9月計	10月(見込)	11月(見込)	12月(見込)	10-12月計
23年度国内(空路)	601,700	564,200	577,300	654,900	628,700	599,700	3,626,500	660,000	600,000	570,000	1,830,000
23年度国内(海路)	1,400	11,100	8,400	8,700	3,500	3,800	36,900	5,000	2,000	2,000	9,000
23年度海外(空路)	60,200	63,300	68,100	80,300	71,600	79,600	423,100	76,000	72,000	83,000	231,000
23年度海外(海路)	6,500	6,600	9,600	34,900	24,800	27,000	109,400	35,000	20,000	15,000	70,000
23年度国内・海外合計	669,800	645,200	663,400	778,800	728,600	710,100	4,195,900	776,000	694,000	670,000	2,140,000
22年度対比(国内・海外)	163.8%	162.6%	147.9%	128.1%	113.7%	143.5%	140.0%	123.0%	112.8%	105.5%	113.8%
19年度対比(国内・海外)	78.7%	77.3%	76.4%	80.8%	71.3%	87.7%	78.4%	91.2%	86.8%	88.7%	89.0%

※海路については沖縄の各港で予定されているクルーズ船が全て寄港した場合を想定して算出



1. 入域観光客数概況(23年上期実績および10月～12月見通し)

(概況)

国内入域については各種イベントが通常開催されることや離島直行便の需要が高く、修学旅行も回復傾向であることから、旅行需要は引き続き好調に推移している。

海外入域については、空路は特に台北、韓国仁川、香港路線については予約が堅調に推移している。11月下旬にはシンガポール路線も運航再開予定で、空路入域客数に関してはコロナ前の7割程度の水準まで回復する見込み。一方、中国国際航空が10月19日から11月29日まで需要低迷による北京線の運休、および上海吉祥航空が10月29日から11月30日まで需要低迷による上海線の運休を発表しており、中国本土路線の需要回復が課題となっている。

海路は、11月以降も引き続き台湾や中国(上海・厦門・香港)などから入港が予定されているが、入域客数はコロナ前の約3割の水準となる見通し。

なお、年間の入域観光客数の見通しは先月発表時点から12,100人増えて、8,232,100人となる見通し。

(詳細)

・10月 :【国内】(空路)コロナ前19年度を大きく超えるの66万人(19年10月対比 107.3%)と見込む。特に宮古・石垣を含む東京・大阪発沖縄路線の需要が高い。また、修学旅行の受入についてもコロナ前19年度に近い水準まで回復している。

(海路)横浜港などから合計4回入港予定。入域客数は0.5万人(19年10月対比 89.3%)となる見通し。

【海外】(空路)入域客数は7.6万人(19年10月対比 61.7%)となる見通し。

(海路)台湾(高雄)2回、中国(上海、厦門、香港)6回、その他3回の合計11回入港予定。

入域客数は3.5万人(19年10月対比 32.6%)となる見通し。

・11月 :【国内】(空路)コロナ前とほぼ同水準の60万人(19年11月対比 100.7%)と見込む。

(海路)東京港1回、大阪港1回の合計2回入港予定。入域客数は0.2万人(19年11月対比 50.0%)となる見通し。

【海外】(空路)30日よりシンガポール路線(ジェットスター)が復便(週3便)する予定。入域客数は7.2万人(19年11月対比 73.5%)となる見通し。

(海路)中国(上海、厦門、香港)9回、その他1回の合計10回入港予定。

入域客数は2万人(19年11月対比 19.8%)となる見通し。

・12月 :【国内】(空路)コロナ前とほぼ同水準の57万人(19年12月対比 100.7%)と見込む。

(海路)横浜港から1回入港予定。入域客数は0.2万人(19年12月対比 29.9%)となる見通し。

【海外】(空路)入域客数は8.3万人(19年12月対比 79.0%)となる見通し。

(海路)中国(上海、厦門、香港)より9回入港予定。入域客数は1.5万人(19年12月対比 19.4%)となる見通し。

2. 県内ホテル客室単価概況(23年上期実績および10月～12月見通し)

ホテル区分	実績(1客室あたりの単価)				見通し(1客室あたりの単価)					
	4月～6月	前年比	7月～9月	前年比	10月	前年比	11月	前年比	12月	前年比
本島リゾート	¥28,562	111.5%	¥41,740	118.3%	¥27,395	114.5%	¥25,083	114.2%	¥31,448	131.4%
離島リゾート	¥29,386	127.6%	¥37,052	109.2%	¥24,864	106.2%	¥22,740	105.9%	¥28,728	123.9%
シティホテル	¥14,451	132.8%	¥15,694	124.8%	¥13,517	113.6%	¥14,182	117.6%	¥15,750	121.6%

(OCVB独自調査)※上記ホテル客室単価実績および見通しについては、OCVBがヒアリングした約330のホテルの平均値

(概況)

4月～9月の県内ホテル客室単価実績については、旅行マインドが堅調であったこと、物価高等の要因により、前年度比で大きく伸びている。離島リゾートについては、上期に比べると価格が落ち着いてきている。

10月から12月の見通しについても、旅行目的地として引き続き沖縄が人気であること、需要の伸びが顕著であることにより、各ホテル区分ごとの客室単価については前年を超える水準で推移する見込み。

課題となっている人手不足に関しては、人材派遣会社の活用や求人誌への広告掲載などの取組のほか、自動チェックイン機の導入など省人化への取組が行われている。

(県内ホテルや旅行会社、OTAへのヒアリングによるOCVB独自調査)

3. 県内レンタカー単価概況(23年上期実績および10月～12月見通し)【新規】

実績				見通し					
4月～6月	前年比	7月～9月	前年比	10月	前年比	11月	前年比	12月	前年比
¥24,538	145.5%	¥33,281	112.4%	¥ 22,249	97.1%	¥ 22,509	96.0%	¥ 25,448	111.2%

※上記、レンタカー単価実績および見通しについては、OTAからのヒアリングによるOCVB独自調査(平均値)単価については予約1件当たりの単価。

(概況)

4月～9月の県内レンタカー単価実績については、旅行需要が好調であったことから、前年度と比較しても高単価で推移している。一方、10月から12月の見通しについては、10月、11月については前年の水準をやや下回っているが、2万円台を維持しており、12月は2万5千円台となっている。

一方で、沖縄県レンタカー協会へヒアリングしたところ、レンタカー供給台数はコロナ前19年度並み(令和4年度登録台数42,718台)に戻っているが、人手不足による稼働台数への影響が出ており、人材確保が大きな課題となっている。

(OTAおよび沖縄県レンタカー協会へのヒアリングによるOCVB独自調査)

令和5年11月1日（水）

「帰宅支援対策運用図上訓練」を実施します ～観光危機管理の訓練で「帰宅支援」に特化した初の取り組み～

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（会長：下地芳郎、以下 OCVB）は、沖縄県から観光危機管理体制構築支援事業を受託しており、この度、災害・観光危機発生時における観光客の早期帰宅のため、効果的なオペレーションを検討することを目的に、帰宅支援対策運用図上訓練を実施します。

観光危機管理における図上訓練は、災害・観光危機発生時の危機対応を強化するため、平成28年度から開催しており、今年度で7回目（令和2年度はコロナの影響によりオンラインワークショップ）の開催になります。これまでは、災害発災直後の「初動対応」を毎回実施していましたが、今回は初めて、観光危機管理の特色である「帰宅支援」のオペレーションに特化して実施いたします。

実施にあたっては、事前に3回の勉強会を行い、各自の役割やリソース、連絡先との調整項目を確認しました。各回の内容は、ファシリテーショングラフィック[※]の手法を用いてわかりやすく見える化しており、当日はそれをもとに振り返りをし、訓練に臨みます。

記

- 1 日時：令和5年11月14日（火） 10:00～17:00 開場 9:30
- 2 場所：沖縄空手会館 道場（沖縄県豊見城市豊見城 854-1）
- 3 主催：沖縄県及び OCVB ※県所管課 文化観光スポーツ部観光振興課
- 4 参加者：沖縄県、市町村、観光協会、観光関連団体・事業者、OCVB、他
(39団体 122名) ※10月26日現在

[※]議論や発言を見える化し、議論の客観視化、活性化を図る手法

※当日のタイムテーブル：

時間	内容
10：00	開会あいさつ（沖縄県/OCVB）
10：30	地震発災～シェイクアウト～初動対応
10：50	帰宅支援対応
	（昼休憩）
13：35	帰宅支援対応に係る模擬記者会見訓練
15：00	帰宅支援対応の振り返り、発表、訓練講評、アンケート
17：00	終了

※プログラムは都合により変更になる場合があります。

※第1回事前勉強会（グループワーク）のようす（令和5年9月7日（木）開催）



※観光危機管理計画について

沖縄県では平成27年3月に「沖縄県観光危機管理基本計画」、平成28年3月に「観光危機管理実行計画」を策定し、観光産業に負の影響を与える観光危機に対し、県、市町村、OCVB、観光関連団体・事業者、県民等の各主体が、連携を図りながら観光危機管理の役割と行動を認識し、危機対応に取り組んできました。

令和3年度には、新型コロナウイルス感染症等への対応等も踏まえ、備えから復興まで、より具体的な取り組みを加えるとともに、各危機対応における関係各所の役割をさらに明確にし、観光危機発生時に機動的で実効性のある対策を実施できる体制を構築することを目的に、「第2次沖縄県観光危機管理計画」として改定・一本化しました。また、観光危機時に迅速な対応ができるよう、危機に応じたマニュアルを作成しており、定期的実施する訓練や実際の危機対応を踏まえて、随時見直します。

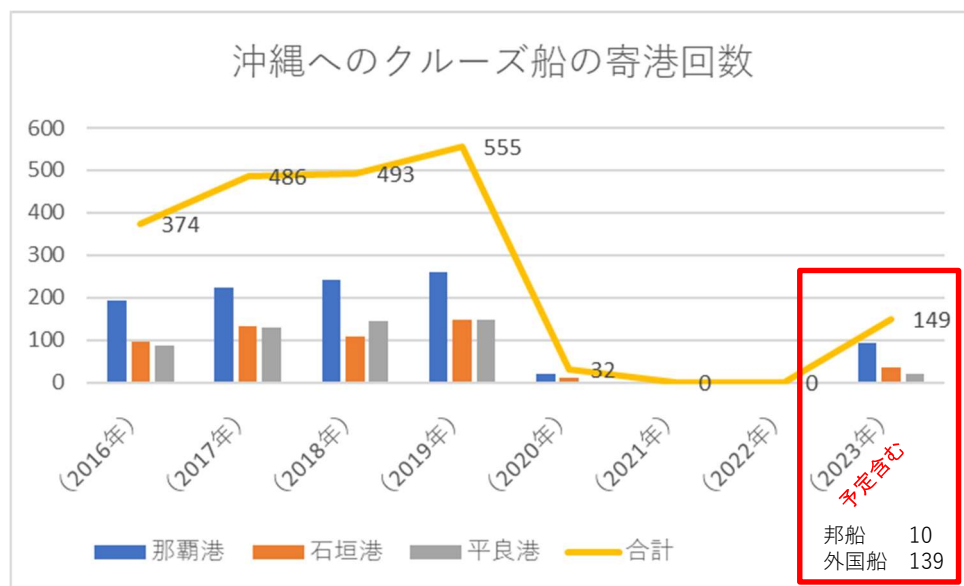
現在、県内においては17市町村（令和5年10月時点）が観光危機管理計画を策定済みであり、今後も各地域における策定・運用に向けて引き続き支援してまいります。

【お問い合わせ先】（一財）沖縄観光コンベンションビューロー
 企画・施設事業部 企画課 担当：貞熊、中山、喜瀬
 TEL:098-859-6126 FAX:098-859-6221 Mail:kikikanri@ocvb.or.jp

令和5年11月1日（水）

「質の高いクルーズ観光の推進」に向けた船社の動向および今後の取り組みについて

今年3月のクルーズ船の再開以降、沖縄へのクルーズは那覇を中心に回復基調にあり、各港湾管理団体の情報によると、今年3月から12月にかけて、那覇で94本、石垣36本、平良で19本寄港する見通しとなっています。最近の動向として、商船三井クルーズから2024年12月から新たなラグジュリークルーズ船「MITSUI OCEAN FUJI」の運航を発表され、那覇発着で石垣や宮古、与那国など周辺離島を巡るフライ&クルーズが予定されています。また、去る10月17日に香港から沖縄へ初寄港となったクルーズ船「リゾートワールドワン号」の船内セレモニーにおいて、運航会社から船内で提供する食材において県産食材の積極的な使用について発表があるなど、「質の高いクルーズ観光の推進」に向けて着実な動きが出始めています。



一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローは、沖縄県から戦略的クルーズ観光推進事業を受託しており、沖縄県と連携し今後も更なるクルーズ観光の質の向上を目指してまいります。12月には、国内外のクルーズ関係者を招いた、クルーズカンファレンスを開催いたします。カンファレンスでは、招待者の基調講演のほか、パネルディスカッション、県内事業者との商談会等を予定しており、関係者間のネットワーク構築はもとより、寄港時における付加価値の高いツアーの充実化や県産品の消費促進などを図ることで、クルーズ観光による経済効果の拡大を狙います。

【クルーズカンファレンス 2023 概要】

日程：2023年12月20日（水）

場所：調整中

内容：○クルーズ船関係者による基調講演およびパネルディスカッション

○クルーズ船関係者および県内事業との商談会

○県内事業者によるクルーズ船関係者向けプレゼンテーション

（※上記日程、プログラムは検討中であり、実際とは異なることがあります）

【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー

海外・MICE部 海外プロモーション課 担当：仲里・平山

TEL:098-859-6127 FAX:098-859-6221

Mail: cruise@ocvb.or.jp

令和5年11月1日（水）

沖縄修学旅行誘致に関する取り組みと今後の動き

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（会長：下地芳郎、以下 OCVB）は、沖縄県から「令和5年度教育旅行推進強化事業」を受託しており、沖縄への安定的な修学旅行需要の確保及び受入体制の強化を行っております。

沖縄修学旅行を取り巻く環境や課題を踏まえ、下記の取り組みを行います。

1. 最新の沖縄修学旅行を体験するモニターツアーを開催 学校関係者を募集します

近年学校現場において、探求学習やSDGs学習に対応するコンテンツが求められているものの、具体的にどのような取り組みができるのか悩ましいという声があることから、学校関係者を対象としたモニターツアーを開催いたします。実際に県内で修学旅行コンテンツを体験いただくことで沖縄への修学旅行誘致を図ります。また、現在沖縄への修学旅行は10月から12月に集中しておりますが、モニターツアーを実施することにより、実施時期の分散化も狙います。開催にあたり、沖縄修学旅行の主要マーケットである 関東・関西・東海エリアからの参加者を募集いたします。

■モニターツアー概要

日時：令和6年1月27日（土）～令和6年1月28日（日） 1泊2日

募集人数：12名（予定）

対象者：関東、関西、東海エリアに所在する中学校または高等学校の学校関係者

応募方法：WEBサイト「おきなわ修学旅行ナビ」より申込書ダウンロードの上、応募

申込期間：令和5年11月上旬～令和5年12月28日（木） 15：00迄

募 集：1学校1名迄（先着順）※応募多数の場合は事務局にて選定

2. 貸し切り観光バスの運転手不足に関する取り組み状況

今年 10 月から 12 月にかけて貸切観光バスの運転手不足を受け、OCVB でも問題の解決に向けた取り組みに努めておりますが、これまで以下の取り組みを行ってまいりました。

【OCVB での取り組み】

- ・県内バス会社および旅行会社向けに沖縄県の「修学旅行貸切バス等受入体制緊急支援事業*」等各種支援策について説明会を実施

引き続き OCVB ではバス会社、旅行会社等関係者に対し、沖縄県の支援策の周知徹底および活用促進を図ると共に、関係者からの情報収集、連携を図りバス運転手不足の解消に向けて取り組んでまいります。

* 修学旅行貸切バス等受入体制緊急支援事業

沖縄県における貸切バスについては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、利用が著しく低下し、経営状況が苦しい状況にあるほか、人材不足も深刻な状況にあり、県外からの修学旅行等の団体旅行が受けられない恐れがあることから、緊急的に県外から乗務員等を受け入れる貸切バス事業者に対し、補助金を交付する。

<参考：2023 年度（令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月）の修学旅行見込入れ込み数>

※10 月 11 日時点、旅行社 15 社中 8 社からの回答により推計（OCVB 調査）

※2018 年度修学旅行入れ込み実績、2022 年度 OCVB 調査による入れ込み見込み数を掲載

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018 年度	校数	218	429	217	27	1	67	382	389	386	113	98	87	2,414
	人数	26,033	54,779	34,575	3,253	37	11,698	80,400	85,195	71,947	22,804	14,324	15,255	420,300
2022 年度	校数	64	95	93	19	1	35	271	302	252	82	82	74	1,370
	人数	11,349	13,506	14,799	3,082	16	6,743	52,479	64,014	48,000	14,441	15,059	14,957	258,445
2023 年度	校数	115	287	164	22	4	40	315	360	267	80	89	60	1,803
	人数	14,991	37,367	26,995	2,747	165	6,802	64,741	80,169	49,996	14,572	16,256	11,473	326,274

【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー

国内事業部 受入推進課

担当：屋宜

TEL:098-859-6129 FAX:098-859-6221

Mail:shuryo@ocvb.or.jp

令和5年11月1日（水）

「沖縄リゾートワーケーション推進協議会」の取り組みについて

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（会長：下地芳郎、以下 OCVB）が事務局を務める「沖縄リゾートワーケーション推進協議会（以下推進協議会）」は、県内ワーケーションを推進する任意団体で、10月1日現在46の企業・団体が加盟しています。

ワーケーションをフックとし、観光振興の側面においては長期滞在および消費額向上、産業振興の側面においては企業誘致をはじめとするビジネス創出、地域振興の側面においては地域活性化や社会課題解決、その他にも教育的側面として交流人材の創出を目的として、「観光・誘客」「産業振興」「地域・受入」の3部会を設け、部会毎に課題や取り組みなどの共有を図っています。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が5類感染症へ移行され、各企業のテレワーク導入も二極化されてきているなか、テレワークやワーケーションを導入している企業に対しての継続化や、福利厚生や健康経営等に課題を抱えている企業がワーケーションを導入するにあたり、ディスティネーションとしての沖縄の選択を促すために、沖縄県ワーケーション促進事業と連携し、展示会や博覧会等へ出展し県外企業などをターゲットに県内ワーケーション情報の発信を行っています。

11月に県内で行われる ResorTechEXPO および併催されるワーケーションフェアへも参加し、出展および来場で参加する県外・海外企業へ向けて、沖縄のワーケーション環境について発信を行います。

■11月実施予定の取り組み

<ワーケーションフェアへの出展>

日程：令和5年11月9日（木）10日（金） 沖縄アリーナ2階

内容：コワーキングスペースの提供、協議会員施設情報の提供

<ブルーゾーン沖縄ワーケーションセミナーの開催>

日程：令和5年11月9日（木）15:00～ 沖縄アリーナ4階

テーマ：ウェルビーイングを達成するウェルネス産業の世界動向、

ブルーゾーン沖縄ワーケーションとは

登壇者：荒川雅志（琉球大学国際地域創造学部ウェルネス研究分野 教授）

<ワーケーションウィーク>

日程：令和5年11月6日（月）～11月19日（日）

内容：県内ワーケーション関連施設における当該期間のイベント情報の発信

ResrTech から大交易会の期間を含む約2週間をワーケーションウィークと定め、
県外海外から来沖している同催事関係者に向けて、沖縄県内のワーケーション環境
およびその魅力を、協議会WEBサイトを通じて発信する

以上

【お問い合わせ先】

沖縄リゾートワーケーション推進協議会事務局

（OCVB 企画・施設事業部 プロジェクト推進室）

担当：山田・本橋・河村

TEL：098-851-3868

E-mail：workcation@ocvb.or.jp

URL：https://workcation.ocvb.or.jp/



いつもの景色になかった
鮮やかな海が見えるだけで
はかどる仕事もある。

Workcation

ワーケーション・ウィーク・オキナワ

Week

Okinawa



2023
11.6 Mon
|
19 Sun

沖縄ワーケーション体験してみませんか？

『沖縄でワーケーションをしてみたい！』『沖縄の地域や企業とつながりたい！』そんな皆様をワーケーション施設等が連携してお迎えする2週間。施設体験はもちろん、セミナー、ワークショップ、交流体験プログラム等をご用意しておりますので、沖縄ワーケーションを気軽に体感していただけます。

(※有料プログラムを含みます。)

いろいろな施設を
見学・体験してみたい？



ワーケーションフェア
特別プログラムを用意！



沖縄ワーケーションに関心のある方ならどなたでも大歓迎！

イベント実施団体、参加者ともに募集中！

イベント実施団体

- ワーケーション施設
- シェアオフィス
- コワーキングオフィス
- ホテル等宿泊施設
- ワーケーションプログラム等を運営する団体



参加者

- 県内外テレワーカー
- 県内外企業
- 自治体関係者

11/9-10 には、ワーケーションフェアを開催！
ワーケーションを盛り上げる企業・団体が出展！！
ResorTechEXPO と同時開催。
詳しくは裏面をご覧ください。

お問い合わせ

沖縄リゾートワーケーション推進協議会

URL : <https://www.ocvb.or.jp/workcation/>

E-mail : workcation@ocvb.or.jp



ウェルビーイングを達成する

ウェルネス産業の世界動向、

ブルーゾーン沖縄ワーケーションとは

2023

11.9 THU 15:00
16:00

沖縄アリーナ

ResorTech EXPO 2023 in Okinawa 4階セミナー会場



荒川雅志 Arakawa Masashi

1972年福島県生まれ。世界5大長寿地域“ブルーゾーン”沖縄100歳長寿者のライフスタイル研究、沖縄の美容と健康素材の研究で福岡大学大学院医学研究科社会医学専攻修了。医学博士。健康と観光を融合するヘルスツーリズム論、生きがい・ウェルビーイングを達成するウェルネスツーリズム論を日本の大学授業で初めて開始。2023年よりニューヨーク大学客員教授として自然の再生・人の再生・地域の再生リジェネラティブツーリズム（再生観光）の共同研究開始。ウェルネス研究、ウェルネスツーリズム研究の第一人者。海洋療法学者。

全米ビジネス書ベストセラー『The Blue Zones(ブルーゾーン) 2nd edition 世界の100歳人に学ぶ健康と長寿9つのルール』(2022年、祥伝社) 翻訳・監修者。

沖縄ブランド WELLNESS OKINAWA JAPAN 認証制度審査員、琉球料理保存協会顧問、沖縄コーヒー協会理事、金沢市ウェルネスツーリズム推進事業委員長(2019年)、鹿児島県かごしま幸せプロジェクト懇談会ウェルネス推進事業委員(2021年)、観光品質認証協会評議員ほか国県各種委員多数。

ザ・リッツ・カールトン沖縄新ウェルネスプラン監修、ANA インターコンチネンタル石垣リゾート Spa 監修、森トラスト・イラブ SUI ウェルネス SPA メニュー開発、ハレクラニ沖縄ウェルネスプログラム開発、星のや沖縄ブルーゾーン滞在プラン監修、名古屋市観光コンベンションビューローウェルネススタイル NAGOYA 監修、島根県観光振興事業監修、日本航空健康組合 JAL Wellness My Book2025 ウェルネス監修、ほか多数。

OKINAWA
RESORT
WORK
VACATION

主催：沖縄リゾートワーケーション推進協議会

TEL : 098-851-3868

E-mail : workcation@ocvb.or.jp

URL : workcation.ocvb.or.jp

セミナーの参加(無料)は
こちらから

※リゾテックの来場登録が必要です



令和5年11月1日（水）

長野県からのチャーター便 ～OCVB・長野県観光機構とMOU締結後、初のチャーター便到着～

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（会長：下地芳郎、以下OCVB）は、長野県からのJTAチャーター便到着にあたり、日本トランスオーシャン航空株式会社（以下JTA）と空港歓迎式を実施いたします。

今年3月、長野県と沖縄県が交流連携協定を締結したことを踏まえ、今年6月、OCVBと一般社団法人長野県観光機構は、今後のDMO連携強化や観光誘客促進に関する連携協定を締結いたしました。今回のチャーター便は、連携協定後初となるチャーター便就航となっており、長野県は観光商談会・教育旅行商談会の開催や現地視察等、沖縄からの誘客活動を強化する運びとなっております。

記

- 1 日時：令和5年11月1日（水）14:30頃予定 ※14:10着予定
- 2 場所：那覇空港国内線到着A
- 3 概要：以下の通り
 - ・チャーター便は催行3年目
 - ・長野県信州まつもと空港からのJTAチャーター便 那覇空港到着時刻14:10予定
 - ・JTA及びOCVBにて歓迎横断幕での歓迎・長野県代表者への花束贈呈
 - ・チャーター便搭乗人数120名
 - ・長野県代表者 長野県産業政策監 渡辺 高秀 様（OCVB:目島常務でお出迎え予定）

4 その他(スケジュール・内容等)：

滞在スケジュール 11月1日（水）～4日（土）

11月1日（水）16:30～ 沖縄県経済会との意見交換・懇談会（於：沖縄ハーバービューホテル）

11月2日（木）13:30～16:30 長野県観光商談会・教育旅行商談会 in 沖縄（於：ホテルサン沖縄）
17:45～19:45 沖縄県・長野県交流会（於：ホテルコレクティブ）

11月3日（金）～4日（土）現地視察・研修等

※OCVBは沖縄県教育委員会（11/1）への同行、行程視察先の助言・説明会集客等で協力

※（新たな動き）：長野県3市（松本市、佐久市、千曲市）と「那覇市」「沖縄市」「うるま市」の交流が期間中に予定されております。

※MOU締結に関するプレスリリース（2023.6.6） <https://www.ocvb.or.jp/topics/4085>

【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー

国内事業部 国内プロモーション課

担当：黒島・照屋・賀数

TEL:098-859-6125 Mail: kokunai_rosen@ocvb.or.jp

令和5年11月1日（水）

「ツーリズム EXPO ジャパン 2023 大阪・関西」にて 新しい旅のかたち、エシカルトラベルを発信

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（会長：下地芳郎、以下 OCVB）は、沖縄県より受託している国内需要安定化事業の一環で、「旅の未来を創造する」総合観光イベント「ツーリズム EXPO ジャパン 2023 大阪・関西」会場にて、10月26日（木）から30日（日）の4日間、沖縄観光プロモーションを実施いたしました。

沖縄県では第6次沖縄県観光振興基本計画（令和4年7月策定）の中で「世界から選ばれる持続可能な観光地」を沖縄が目指す将来像として示しており、SDGs への貢献と持続可能な観光の推進に向けて「エシカルトラベル」を提案するプロモーションを展開しています。

今回の催事では、「エシカルトラベル」をテーマに「旅先に敬意と思いやりをもって地域の人々の暮らしや自然環境に配慮した旅」を沖縄ブース内で訴求しました。

沖縄ブースでは、一般財団法人沖縄美ら島財団のご協賛をいただき亜熱帯気候特有の環境で育つ植物の展示や、旅先の環境問題について考えるきっかけづくりとなるワークショップの開催、沖縄独自の文化である琉球古典音楽の演奏、県内各市町村のエシカルトラベル PR ステージなど、「エシカルトラベル」を楽しみながら学べるコンテンツや、沖縄ブースを訪れる来場者にまるで沖縄を旅行しているかのように楽しみながら学べる施策を展開しました。

本プロモーションを通じて、旅行者にも沖縄県民にも心地良い、新しい観光のあり方「エシカルトラベル」を発信するとともに「世界から選ばれる持続可能な観光地」の形成に向けて取り組んでまいります。

【ツーリズム EXPO ジャパン 2023】

- 主催：公益社団法人日本観光振興協会、
一般社団法人日本旅行業協会、日本政府観光局（JNTO）
- 日時：2023年10月26日（木）～10月29日（日）4日間
業界日 10月26日（木）、27日（金）
一般日 10月28日（土）、29日（日）
- 場所：インテックス大阪
- 公式 WEB サイト：<https://www.t-expo.jp/biz>

■ステージ、ワークショップ実施スケジュール

「エシカルトラベルオキナワ」ってなに？

沖縄の自然環境、伝統文化、産業に触れながら“地域と過ごす旅”。
訪れる観光客一人ひとりが地域の一員のように過ごすだけでなく、迎え入れる観光事業者、沖縄県民も同様の考えを持ち、
双方がその地域の暮らしや自然環境に配慮した新しい旅のかたち。

エシカルトラベルを学ぶ、知るステージプログラム

10/28 Sat	ステージプログラム	10/29 Sun	ステージプログラム
10:00	A 与那国島の民具づくりワークショップ 10:30-11:00	10:00	G しまじまの芸能祭 体験ワークショップ (エイサー太鼓づくり) (40分) 10:20-11:00
11:00	D エイサーと琉球舞踊(琉球会) (20分) 11:10-11:30	F しまじまの芸能祭 創作エイサー演舞(琉球園祭り太鼓) (20分) 11:00-11:20	B エシカルな旅を体験するミニワークショップ(20分) 11:30-11:50
	C 「沖縄を知る・学ぶ・伝える」トークセミナー ～海洋博公園 × 琉球古典芸能 × 文化保全～ (30分) 11:40-12:10	11:00	I 南城市・八重瀬町がお届けする「南沖縄ふらり旅」(15分) 12:00-12:15
12:00	E 琉球古典音楽の実演(琉球舞踊あり) (30分) 12:20-12:50	12:00	K 「感動産業特区うるま市」うるまクイズ大会(15分) 12:30-12:45
13:00	H サキシマンかいいらっしやい! (30分) 13:10-13:40 宮古島・八重山ゆるキャラ紹介タイム(各5分) 13:40-13:50	J 沖縄県沖縄市観光PRスピーチ&クイズ(15分) 12:50-13:05	E 琉球古典音楽の実演(琉球舞踊あり) (30分) 13:30-14:00
14:00	B エシカルな旅を体験するミニワークショップ(20分) 14:10-14:30	14:00	A 与那国島の民具づくりワークショップ(30分) 14:20-14:50
	D エイサーと琉球舞踊(琉球会) (20分) 14:40-15:00	H サキシマンかいいらっしやい! (30分) 15:00-15:30	G しまじまの芸能祭 体験ワークショップ (エイサー太鼓づくり) (40分) 15:40-16:20
15:00	I 南城市・八重瀬町がお届けする「南沖縄ふらり旅」(15分) 15:10-15:25	15:00	F しまじまの芸能祭 創作エイサー演舞(琉球園祭り太鼓) (20分) 16:20-16:40
	K 「感動産業特区うるま市」うるまクイズ大会(15分) 15:30-15:45		
	J 沖縄県沖縄市観光PRスピーチ&クイズ(15分) 16:00-16:15	16:00	C 「沖縄を知る・学ぶ・伝える」トークセミナー ～海洋博公園 × 琉球古典芸能 × 文化保全～ (30分) 16:30-17:00
16:00	C 「沖縄を知る・学ぶ・伝える」トークセミナー ～海洋博公園 × 琉球古典芸能 × 文化保全～ (30分) 16:30-17:00	17:00	E 琉球古典音楽の実演(琉球舞踊あり)(30分) 17:10-17:40
17:00	E 琉球古典音楽の実演(琉球舞踊あり)(30分) 17:10-17:40		閉館

A 与那国島の民具づくりワークショップ



神聖な植物として知られるクパの葉を使った水汲み道具「ワプル」作りなどを体験できるワークショップ。与那国の話や暮らしながら一緒に手仕事を楽しめます。

B エシカルな旅を体験するミニワークショップ



思いやりと敬意を忘れない「エシカルな旅」の第一歩は、まず「知る」こと。沖縄の自然と暮らしの「つながり」を知り、詳細への小さなアクションを体験します。

C 「沖縄を知る・学ぶ・伝える」トークセミナー



一般財団法人沖縄美ら財団の職員によるトークセミナー。28日(土)は「海洋博公園 × 琉球古典芸能 × 文化保全 ～古典芸能の楽しみ方～」をテーマにお話します。

D エイサーと琉球舞踊(琉球会)



兵庫宗尼崎市で活動しているエイサー団体による演舞。沖縄と関西をつなぐ太鼓の音を、琉球舞踊とともにお届けします。

E 琉球古典音楽の実演(琉球舞踊あり)



琉球王国時代の「おもてなしの音楽」として伝承される琉球古典音楽を琉球舞踊と共にお届けします。(琉球園祭りに参加する場合は別途要料あり)

F しまじまの芸能祭創作エイサー演舞(琉球園祭り太鼓)



沖縄の伝統芸能エイサーをベースに空手の型を取入れた独自の振り付けとダイナミックなパチさばきが特徴的な演舞を披露します。

G しまじまの芸能祭 体験ワークショップ(エイサー太鼓づくり)



沖縄の魂を感じるエイサー太鼓。このワークショップでは、その太鼓を皆さん自身で作ります。そして、演奏する一連の体験をお楽しみいただけます。太鼓の素材は段ボールです。

H サキシマンかいいらっしやい!



島の人達の暮らしには「エシカル」な日常があります。先島諸島の自然と暮らしには島独自の文化や生活の知恵の宝庫です。今回は宮古と八重山の違いなどを紹介していきます。

I 南城市・八重瀬町がお届けする「南沖縄ふらり旅」



沖縄本来のありのままの美しい自然が魅力の南城市と八重瀬町。那覇空港からもほど近い南沖縄エリアの魅力やアクティビティをご紹介します。

J 沖縄県沖縄市観光PRスピーチ&クイズ

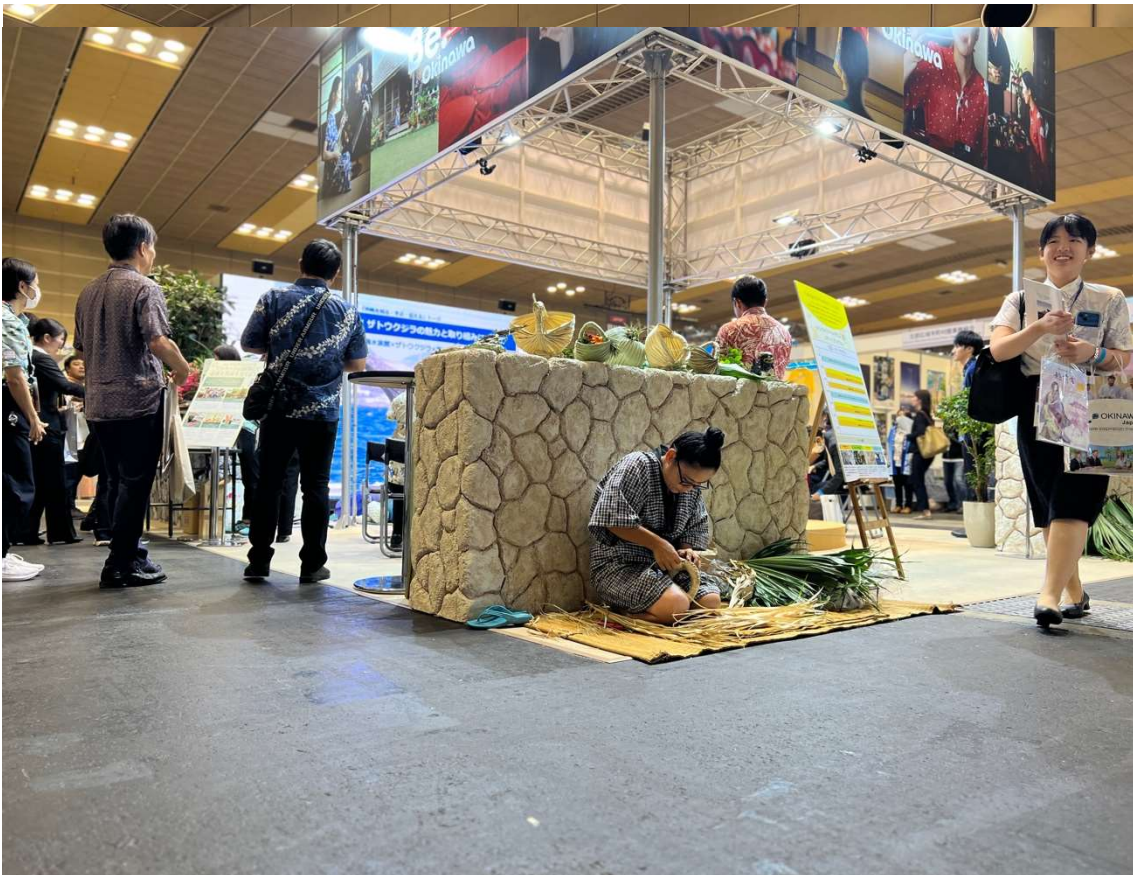


第45代沖縄市観光親善大使ミスハイビスカスの喜納 舞香(キナ マイア)より、魅力あふれるちゃんぶるタウン沖縄市の魅力をお伝えします。スピーチの後は沖縄市にまつわるクイズ大会や伝統文化の奥深さを語る。沖縄の象徴的な祭り「カチャーシー」の踊りも予定しておりますので、最後まで是非ご参加ください。

K 「感動産業特区うるま市」うるまクイズ大会



うるま市は、文化や伝統、自然や食などの魅力を多くの方に知ってもらうために、今年の4月に「感動産業特区宣言」をしました。うるま市はまだ知られていない宝物のような地域です。「クイズ大会」を通してうるま市の魅力をお伝えいたします。正解を発表いただいた方には賞品をご用意しています。ぜひご参加ください。





- 沖縄エリア出展団体（17 団体 29 ブース）
- ・ 北中城村観光協会
- ・ 嘉手納町
- ・ 八重山ビジターズビューロー
- ・ 宮古島観光協会
- ・ 北部広域市町村圏事務組合（沖縄県）
- ・ やんばる3村観光協議会
- ・ うるま市観光物産振興協会
- ・ 沖縄市観光物産振興協会
- ・ 座間味村観光協会（渡嘉敷村との共同出展）
- ・ 国立劇場おきなわ運営財団
- ・ 南城市・八重瀬町地域間連携体
- ・ 宮古島来間リゾート シーウッドホテル
- ・ 沖縄県（おきなわユニバーサルツーリズム）
- ・ 沖縄県文化振興課（沖縄の伝統的な食文化）
- ・ OCVB（スポーツアイランド沖縄）
- ・ OCVB（沖縄本島周辺 15 離島）
- ・ OCVB（沖縄県総合ブース）

【ツーリズム EXPO ジャパン 2023 大阪・関西 開催規模】

参加国数：70 カ国・地域

出展小間数：1,442 小間（トラベルソリューション展含む）

<内 訳>

・海外：490 小間

・国内：635 小間

・その他：317 小間

出展企業・団体数：約 1,275 企業・団体

商談会規模

セラー・バイヤー登録数、商談件数

・参加バイヤー数：529 人

・参加セラー数：1,037 人

・商談件数：5,768 件

来場者数：148,050 人（4日間合計）

【お問い合わせ先】（一財）沖縄観光コンベンションビューロー

国内事業部 国内プロモーション課 担当：嘉数、森田、黒島

TEL:098-859-6125 FAX:098-85-6221 Mail:kokunai_rosen@ocvb.or.jp

令和5年11月1日（水）

「ツーリズム EXPO ジャパン 2023 大阪・関西」にて 嘉手納町・うるま市のブースが表彰されました

会場では、1,275 企業・団体の出展ブースの中から、来場者の投票により、展示会を盛り上げたブースを選出し、表彰する「ツーリズム EXPO ジャパン ブースグランプリ」が開催され、沖縄エリア出展団体（17 団体 29 ブース）のうち、沖縄県内の市町村として初めて「嘉手納町」「うるま市」が特別賞を受賞されました。

■旅のプロが選ぶブースグランプリ 嘉手納町 特別賞 ※業界日來場者の投票にて決定



アメリカン&ポップで楽しい印象のブースを展開し、足元マップ等で「日本一小さい町」を体感できるような工夫がされており、注目を集めました。道の駅嘉手納の平和ガイドについての展示や自然・食に関する動画放映等、町にあるコンテンツを全面にアピールしており、「ちんすこうの掴み取り」といったユニークなアイデア満載のブースを展開していました。

投票者のコメント：

「展示に工夫があり興味をもって嘉手納や沖縄の情報を聞くことができた」

嘉手納町観光協会コメント：

「受賞を非常に驚いた。皆様に喜んでいただき笑顔にすることができた結果だと思っている。ブースは“嘉手納町をしっかりと伝えていきたい”ということを中心に、ブースの動線設計を意識して作り上げた。“基地ではない嘉手納町”を今後広く発信していきたい」

■旅の愛好家が選ぶブースグランプリ うるま市 特別賞 ※一般来場者の投票にて決定



闘牛のオブジェが目を引くブースで、闘牛の実況動画を放映する等、うるま市を代表する「闘牛」を全面にアピールし、注目を集めました。

また、うるま市は「感動を産業に。感動産業特区」を宣言し、まちづくりを推進しており、感動産業特区に関する動画放映を行ったほか、SNS フォローでもずくスーププレゼント企画も人気となっていました。

投票者のコメント：

「迫力ある闘牛のデモンストレーションとスタッフの方の一生懸命な説明が好印象だった」

うるま市観光物産協会コメント：

「何度か出展しているが賞を受賞したのは初めてなのでとても嬉しい。観光を強化してきた効果が表れたと感じている。コンセプトを“闘牛”としたが、目玉となった闘牛バルーンを活用したブースの作りこみに苦勞をした。“感動産業特区うるま市”の発信をこれからも強化していきたい。

※参照：ツーリズム EXPO ジャパン報道資料

https://t-expo2023-production.s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/wp-2023/wp-content/uploads/2023/10/29135847/tej2023_pr-2023-1029_1.pdf



【お問い合わせ先】（一財）沖縄観光コンベンションビューロー
国内事業部 国内プロモーション課 担当：嘉数、森田、黒島
TEL:098-859-6125 FAX:098-85-6221 Mail:kokunai_rosen@ocvb.or.jp